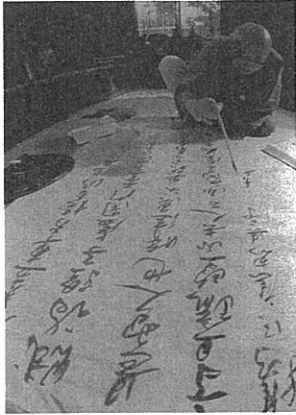


今東光の書・陶・画

— 遊びをせんとや生まれけむ —



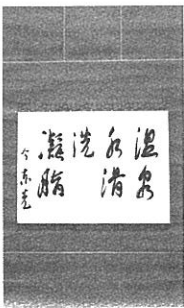
“遊びをせんとや生まれけむ”は、平安時代後期に編纂された『梁塵秘抄』のなかで最も有名な一節です。

遊びをせんとや生まれけむ 戯れせんとや生まれけん

遊ぶ子どもの声聞けば わが身さへこそ揺るがるれ

解釈には諸説ありますが、言葉どおり素直によむと、「人は遊ぶために生まれてきたのだろうか。子どもが遊ぶときは時間を忘れて夢中になる。子どもが遊ぶように夢中で生きたい」となります。

東光は“遊びをせんとや”の精神で書や陶器、絵画に取り組みました。しかしそれは単なる遊びではありません。制作風景をみてわかるように、東光は全力で、真剣に、“遊び”、これらの作品を作り上げました。本展示では、“遊びをせんとや”から生まれた作品と、それに向かう東光の姿を紹介します。



※八木一夫との共作

《温泉水洗凝脂》／書

《南山寿》／書

《四日市の女》／絵画

《野水》／陶器

《白雲抱幽石》／書

[交通案内]

- 近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から南西へ徒歩7分
- JR大和路線「八尾」駅から北北東へ徒歩16分
- 地下鉄「八尾南」駅から近鉄バス「近鉄八尾駅前行き」で「八尾市役所前」下車



今東光資料館 こんとうこう しりょうかん

(八尾図書館3階) <http://web-lib.city.yao.osaka.jp/index.html>